

ワークショップ

ロボット車両の導入による自給飼料調製作業における労働時間削減の可能性

革新的技術開発・緊急対策事業 経営体強化プロジェクト

酪農サイレージ調製作業ロボット化コンソーシアム

代表 帯広畜産大学 花田正明

近年、道東地域を中心とした酪農地帯では経営規模拡大の一方で、慢性的な労働力不足に直面しており、ロボットの導入もしくは作業の外部委託化などにより労働時間の削減に取り組まれています。搾乳作業や飼料給与などの一部の飼養管理作業ではロボット導入により労働時間を削減できるようになってきました。しかし、作業の外部委託化では、委託作業量の増加に伴い委託先における労働力確保が難しくなりつつあります。特に自給飼料調製作業のように季節性の高い作業では作業者の不足が深刻な問題となり、自給飼料調製作業においてもロボットの導入による労働時間の削減が期待されるようになっていきます。このようなことを背景に酪農サイレージ調製作業ロボット化コンソーシアムでは 2017 年度より農林水産省の革新的技術開発・緊急展開事業において「有人車両とロボット車両によるサイレージ踏圧作業体系の開発」に取り組んでまいりました。そこで今回は、本事業の研究成果を皆様にお伝えするとともに、ロボット車両の導入による自給飼料調製作業における労働時間削減の可能性について意見交換させていただく機会を、下記のとおり設けました。年末のご多忙の時期での開催で恐縮ですが、ロボット車両の導入による自給飼料調製作業の労働時間削減に向けて少しでも貢献できればと思っておりますので、より多くの皆様にご参集いただき、様々なお立場からご意見を賜りますようお願い申し上げます。

なお、会場準備の都合により、11 月 29 日(金)までに、別紙申込用紙により事前申し込みのうえ、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

ワークショップ：ロボット車両の導入による自給飼料調製作業における労働時間削減の可能性

主催：酪農サイレージ調製作業ロボット化コンソーシアム

共催：北海道畜産草地学会，北海道酪農・畜産研究ネットワーク

日時 2019 年 12 月 6 日 金曜日 13:00 から 15:30

場所 JA 道東あさひ 2 階会議室（所在地：別海町別海緑町 116 番地 9）

内容 1. プロジェクトの概要

酪農サイレージ調製作業ロボット化コンソーシアム

- 1) JA 道東あさひ管内の酪農規模の動向と課題
- 2) ロボット車両ベース機の紹介
- 3) 踏圧および刈り取り作業における自動走行プログラム
- 4) サイレージパッカーの踏圧効果
- 5) ロボット車両導入による労働時間削減効果

2. 酪農における自動化導入の展望

北海道立総合研究機構酪農試験場 金子 剛

3. 総合討論

申し込み締め切り 2019 年 11 月 29 日(金)

参加申込書 FAX : 0155-49-5775 または E-mail : crcenter@obihiro.ac.jp

参加者所属先	氏名	電話番号	E-mail または Fax

♠お問い合わせ先

帯広畜産大学産学連携センター 藤倉雄司（とうくらゆうじ）

Tel:0155-49-5786 Fax:0155-49-5775

E-mail: crcenter@obihiro.ac.jp